



第108回

私のスケッチブック

「ロダンのアトリエがあった町」

ムードン／パリ郊外（フランス）



日本から銘菓「白い恋人」を御土産にして、仲良しになった常宿のコンシェルジュ氏が一言。「このホテルに日本語を話せるフランス人が居るって知っているかい?」「その男は夜勤専門だから、夜10時以降に出社するよ!」、ならばと…深夜にのこのこと彼に会いに行くと…お母さんが日本人で、パリでも有名なボタンのデザイナーだったそうです。そして「一度、自宅に遊びに来るか?」。そのお住まいがムードンでパリ南西部に位置する高級住宅地、オステルリッツ駅からRER線でヴェルサイユに向かって30分程の閑静な郊外都市でした。

この作品は、ルイ15世が築いたお城の跡地にパリ天文台があり、併設された立派なテラスでお茶を楽しみながら「美しい森と丘の町だな～」と感動しながら描いた記憶。

この町にオーギュスト・ロダン美術館があります。パリ7区にも同じ名前のロダン美術館がありますが、これは邸宅跡を

利用したものです。ムードンのロダン美術館は、住居兼アトリエのあったヴィラ・デ・ブリアンと呼ばれる美しい丘の上に佇んでいます。

門を入るとダンテの神曲を題材とした名作「地獄門」の石膏作品があります。上野西洋美術館にある鑄造作品は、ロダンの死後に制作されたと云われています。私の好きな「カレーの市民」記念碑は、1347年百年戦争時にイギリス軍に包囲されて、港町の人々が取った行動を顕彰する記念でしたが、この作品もロダン没後に建立されたと聞きました。そうそうもう一作! 私は名作バルザック像をロサンゼルス美術館で鑑賞しましたが、これも没後に鑄造されますから、名作もなかなか世に出ないモノです。

皆さんが御存じの「考える人」像は、美術館の敷地内で鳶に被われたロダン夫妻のお墓を見守っています。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。

「第70回 全国カレンダー展」に11度目の入選を果たし、その実力を発揮する。

<http://www.urban.ne.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

Q検索